

## **惜しみなく施す富**

コリント人への手紙第二 8 章 1-15 節

### **はじめに**

私たちの教会では、毎月テーマを決めています。そして毎月、第一週の礼拝の説教では、その月のテーマに従ってお話しています。5月のテーマは、「献金」となっています。

パウロは今日の聖書箇所、コリント教会に「献金」を勧めています。ここでの献金は、エルサレム教会を支える献金です。エルサレムでは飢饉が起こり、エルサレム教会の中には生活に困窮する貧しい人たちがいたようです。その人たちを支えるために、パウロはヨーロッパの教会で「献金」を集めていたのです。

コリント教会も、「テトス」を中心にエルサレム教会を支える献金を集めていたようですが、何かの事情で中断していたようです。そこでパウロはこの手紙で「献金」について教え、中断していたエルサレム教会を支える献金への思いを再び奮い立たせ、最後までやり遂げるようにと勧めるのです。

### **1. 極度の貧しさ、苦しみによる激しい試練の中でも**

パウロは、コリント教会に献金への思いを奮い立たせるために、まずマケドニアの諸教会について証しします。2-5 節にはこうあります。「**彼らの満ちあふれる喜びと極度の貧しさは、苦しみによる激しい試練の中にあってもあふれ出て、惜しみなく施す富となりました。私は証しします。彼らは自ら進んで、力に応じて、また力以上に献げ、聖徒たちを支える恵みにあずかりたいと、大変な熱心をもって私たちに懇願しました。そして、私たちの期待以上に、神のみこころにしたがって、まず自分自身を主に献げ、私たちにも委ねてくれました。**」

マケドニアの諸教会とは、ピリピ教会やテサロニケ教会のことです。これらのマケドニアの諸教会は、激しい迫害があり、クリスチャンたちは苦しめられ、極度の貧しさの中にありました。しかし彼らは、そのような中でも「満ちあふれる喜び」があったのです。そして彼らは、エルサレム教会を支える献金を是非自分たちにもさせてほしいと自ら願い出て、力以上に精一杯の献金を献げたのです。

彼らは、自分たちも大変な状況の中にいたのです。激しい迫害と極度の貧しさの中で苦しんでいたのです。そういう状況なら普通は、他の教会のことなんて考えてられない、自分たちのことだけで精一杯のはずです。エルサレム教会だけでなく自分たちも支えてほしいと思ってもおかしくありません。しかし彼らは、自分たちのことは顧みず、ただでさえ貧しいのに力以上に精一杯の献金を献げ、エルサレム教会を支えようとしたのです。

なぜマケドニアの諸教会は、そのように自分たちのことを顧みずに献金をするこ

きたのでしょうか。それは、「心の豊かさ」があったからです。2節に、「惜しみなく施す富」という言葉があります。彼らは、経済的には貧しかったのです。しかしそのような中でも、惜しみなく人に施そうとする「心の豊かさ」を持っていたのです。彼らは、経済的には貧しかったけれども、心は豊かであったのです。

激しい試練の中で苦しんでいたら、誰もが悲しむはずです。経済的に貧しかったから、誰もが自分の生活のことで精一杯のはずです。しかし彼らは、激しい試練の中でも喜び、経済的な貧しさの中でも、他の人を支えることができる「心の豊かさ」を持っていたのです。

パウロは、これこそ「マケドニアの諸教会に与えられた神の恵み」だと言います。彼らは、神様の恵みによって「心の豊かさ」を持つようになったのです。普通の人間なら、激しい試練の中では悲しみ、経済的に貧しかったら自分のことで精一杯になるはずです。しかし彼らは「神様の恵み」によって、そのような中でも喜び、他の人を支えることができたのです。

彼らは、エルサレム教会を支える献金を、「聖徒たちを支える奉仕の恵み」と呼んでいました。彼らは献金を「恵み」と考えていたのです。彼らは、献金はただ自分のものを失うもの、犠牲にするものと考えていたのではなく、むしろ与えられるもの、「恵み」と考えていたのです。献金をすることで、自分が神様から「恵み」と「祝福」を経験するものと考えていたのです。だからこそ彼らは、自分たちから進んで、喜びをもって、力以上に「献金」することができたのだと思います。

神様の恵みは、激しい試練の中でも喜びを与え、経済的な貧しさの中でも他の人を支えることができる、そういう「心の豊かさ」を与えてくれるものです。マケドニアの諸教会のように、「自分自身を主に献げる」時に、つまりイエス様を信頼して、自分自身を委ねていく時に、私たちは「神様の恵み」を経験し、「心の豊かさ」が与えられるのです。イエス様を信じて、激しい試練がなくなることも、経済的に豊かになることもないかもしれません。しかし私たちは、イエス様を信じる時に、喜びと愛に満ちた「心の豊かさ」を持つことができるのです。そして他の人のために犠牲を払うことも、「恵み」だと考えられるようになるのです。

## 2. キリストの貧しさによって富む者に

次にパウロは、コリント教会に献金への思いを奮い立たせるために、イエス様の恵みについて語ります。9節にはこうあります。「**あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者となるためです。**」

イエス様は、神でありながら人となりました。そこにイエス様の貧しさがあります。神でありながら、飼葉桶で生まれ、田舎町の大工の息子として育ち、わずか三十数歳で十字架に付けられて殺されました。イエス様がこのように貧しくなられたのは、私たちを富む者とするためです。私たちが豊かになるためです。私たちが「心の豊かさ」を持つためです。試練の中でも、貧しさの中でも、喜びと愛に満ちた「心の豊かさ」を持つためです。

イエス様は、私たちが豊かにするために貧しくなられました。イエス様は、御自身が持っていたものを私たちに与え、私たちが豊かにし、御自身は貧しくなられたのです。つまりイエス様は、私たちに多額の献金をしてくださったとも言えます。イエス様の献金は、お金ではありません。天にある霊的祝福です。エペソ 1:3 にはこうあります。「**神はキリストにあって、天上にあるすべての霊的祝福をもって私たちに祝福してくださいました**」。イエス様は、御自身が持っていた天にある霊的祝福を、私たちに与えてくださったのです。イエス様は、その天にある霊的祝福を、私たちに与えてくださったために、御自身は貧しくなられたのです。

私たちは、イエス様の貧しさによって、神様の子どもとされました。神様の子どもは、神様の財産を相続することができるのです。私たちは神様のひとり子イエス様がこの地上に再び来られる時に、イエス様と共に、天にある神様の栄光を受け継ぐことができるのです。そうして、本当の意味で「富む者」「豊かな者」とされるのです。

イエス様は、天にある霊的祝福と神様の相続財産を私たちに献げてくださいました。そうして私たちが「富む者」「豊かな者」としてくださったのです。私たちは、経済的には貧しいかもしれませんが、「心の豊かさ」を与えられました。そして神様の子どもとして、やがて神様の相続財産を受け継ぐ約束も与えられています。私たちが豊かにしてくださったイエス様に、また私たちのために貧しくなられたイエス様に、私たちは何ができるでしょうか。

5 節を見ると、マケドニアの諸教会は、「まず自分自身を主に献げた」とあります。私たちは、私たちが豊かにし、私たちのために貧しくなられたイエス様のために、まず自分自身を献げなければなりません。自分自身の人生を、時間を、生活を、賜物をイエス様に献げなければなりません。そしてその上で献金を、私たちの力に依りて、また私たちの持っているものに依りて、イエス様に献げることが大切なのです。献金は、「献身のしるし」と言われます。私たちが自分自身をイエス様に献げることの目に見える具体的な形が「献金」なのです。私たちの「献身」を目に見える形に現したものが「献金」と言えます。

### 3. 平等になるように

三つ目にパウロは、コリント教会に献金への思いを奮い立たせるために、献金の平等性について語ります。13-15 節にはこうあります。「**私は、他の人々には楽をさせ、あなたがたには苦勞をさせようとしているのではなく、むしろ平等になるように図っています。今あなたがたのゆとりが彼らの不足を補うことは、いずれ彼らのゆとりがあなたがたの不足を補うことになり、そのようにして平等になるのです。『たくさん集めた人にも余ることはなく、少しだけ集めた人にも足りないことはなかった』と書いてあるとおりです**」。

私たちの生活は、この先どうなるのか分かりません。ただ、今生活にゆとりがあるなら、今生活に不足を覚えている人たちの生活を支えるべきなのです。そうすれば、私たちがやがて生活に不足を覚えるような時がくれば、私たちがかつて支えた人たちが私たちの生活を支えてくれるようになるのです。

イスラエルの民が荒野でマナを集めた時、「たくさん集めた人も余ることはなく、少しだ

け集めた人にも足りないことはなかった」のです。旧約の神の民であるイスラエルの民が平等であったように、新約の神の民である教会も平等であるべきなのです。どこかの教会が不足していて、どこかの教会にゆとりがある、そういう不平等さが教会の中にあってはならないのです。ゆとりのある教会は、そのゆとりを持って余してはならないのです。不足のある教会が足りないままであってはならないのです。ゆとりのある教会は、そのゆとりを持って余すのではなく、不足のある教会を支えるべきなのです。そして教会は平等であるべきなのです。

私たちの教会は、経済的に十分ではないために、神奈川中会から支援金を与えられています。神奈川中会はまさに、ゆとりのある教会が、不足のある教会を支えているのです。しかし私たちの教会がやがて成長し、経済的に自立した時には、私たちの教会のゆとりが他の教会の不足を支えるようになるのです。

献金は、ある意味で平等を信じて献げるものでもあります。私たちが献げた献金が、やがて何らかの形で自分に帰って来る、そのことを信じて献げることも大切なことではないでしょうか。もちろん御利益のために献金するものではありません。しかし、私たちが献げた献金を、神様がちゃんと覚えてくださり、何らかの形で私たちの恵みと祝福となって帰って来ると期待して献げることは許されることではないでしょうか。マケドニアの諸教会も、献金を「恵み」と考えました。献金することは、私たちに「恵み」をもたらすものであるのです。そのことを信じて、期待して献金することは、私たちに許されていることであると思います。

## **おわりに**

パウロは、マケドニアの諸教会の姿を通して、イエス様を信じるクリスチャンに与えられた「心の豊かさ」を教えています。イエス様は私たちに、その「心の豊かさ」を与えるために、御自身が貧しくなられました。そして私たちのために罪の贖いをなし、天にある霊的祝福をもって、私たちを豊かにしてくださいました。さらに私たちはやがてイエス様がこの地上に再び来られる時に、神様の子どもとして、天にある神様の栄光という財産をイエス様と共に相続することができるのです。

私たちはイエス様によって豊かにしていただきました。私たちのこの豊かさを、誰に分ち合うべきでしょうか。まずはイエス様に献げることが大切でしょう。そして今、不足を覚えている人たちに献げることが大切でしょう。

献金は、「恵み」の奉仕です。私たちが献げる時に、いつか「恵み」と祝福となって私たちのもとに帰ってくるのです。そのことを信じて、期待して献金を献げていきましょう。

天におられる私たちの父なる神様。

私たちはいつも自分のことで精一杯になり、あなたのことや他の人のことにまで思いが及びません。しかしイエス様は、私たちに天にある霊的な祝福を与えるために、御自身が貧しくなられました。それによって私たちは「心の豊かさ」を与えられ、やがて栄光の豊かさが約束されています。

どうか「心の豊かさ」を与えられ、栄光の豊かさを約束された者として、あなたに献金をささげ、今不足を覚えている人たちを支えていけますように。それこそが「恵み」であると信じて、期待して献げていけますように。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。